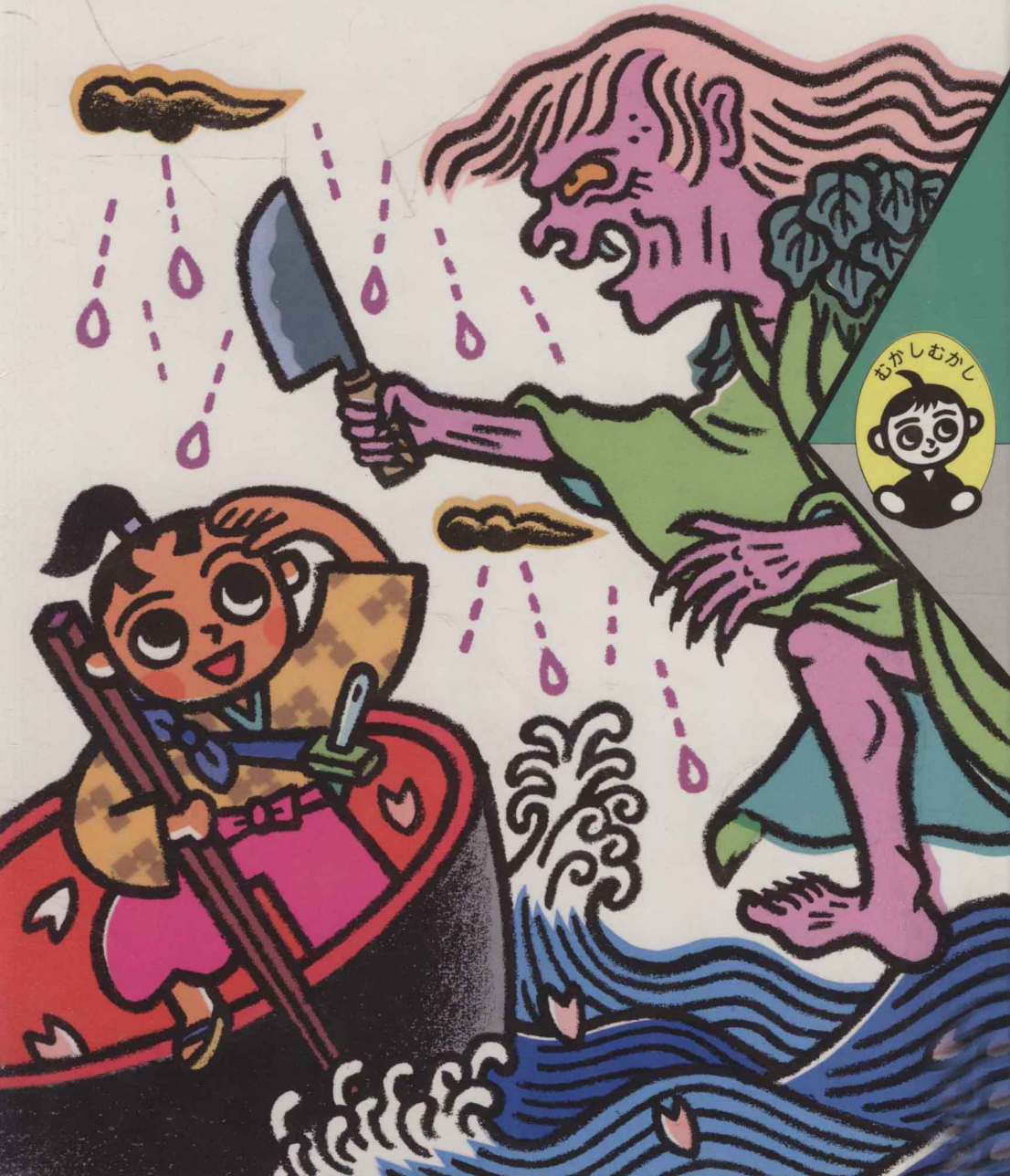
いっすんぼうし
たべられたやまんばほか

松谷みよ子・文　大沢幸子・絵



著者紹介

松谷みよ子 まつたにみよこ

一九二六年、東京に生まれる。『龍の子太郎』『ちいさいモモちゃん』『ふたりのイーダ』等、数多くの名作がある。ライフワークとして民話に取り組み、絵本・再話集も多数。

大沢幸子 おおさわさちこ

一九六一年、東京に生まれる。東京デザイナー学院卒業。絵本やイラストの仕事で活躍中。絵本に『こわくておいしいオムライス』、さしえに「なん者ひなた丸」シリーズ等がある。

むかしむかし②

いっすんぼうし　たべられたやまんば ほか

1997年7月15日　第1刷発行

文　松谷みよ子
絵　大沢幸子
装丁　田名網敬一

発行者　野間佐和子
発行所　株式会社講談社
東京都文京区音羽2-12-21(〒112-01)
電話　出版部　03(5395)3535
販売部　03(5395)3625
製作部　03(5395)3615
印刷所　共同印刷株式会社
製本所　株式会社 若林製本工場

N.D.C.913　79p　22cm

©Miyoko Matsutani／Sachiko Osawa　1997
Printed in Japan
落丁本・乱丁本は,小社書籍製作部あてにお送りください。送料小社負担にておとりかえします。なお,この本についてのお問い合わせは児童図書出版部あてにお願いいたします。定価はカバーに表示してあります。
Ⓡ<日本複写権センター委託出版物>本書の無断複写(コピー)は,著作権法上での例外を除き,禁じられています。

ISBN4-06-267851-9（児図）

いっすんぼうし たべられたやまんば[ほか]

松谷みよ子・文　大沢幸子・絵

江苏工业学院图书馆
藏书章

講談社

読者のみなさんへ――とおい「そせん」からのプレゼント――

むかしむかし、あるところに――、ではじまるむかしばなしは、とおいそせんから、あなたにおくられた、プレゼントです。はこにもはいっていないし、リボンもかかっていないけれど、とってもすてきな、プレゼントです。

そせん、ってだれのことだ？　って、思う人もいるでしょうね。そせんというのは、ほら、おとうさんがいて、おかあさんがいて、それからおじいちゃんがいて、おばあちゃんがいるでしょう。そのまたおじいちゃん、おばあちゃん……。どこまでも、どこまでもつづきますね。

その、たくさんの人びとがそせんです。わたしたちが、いまふみ

しめている大地も、いまのくらしも、そせんからうけついだものです。そのそせんの人びとが、ながい年月のあいだ、口から口へ、かたりつたえてきたものが、むかしばなしなのです。

ですから、むかしばなしのなかには、そせんの人びとの、うれしいこと、かなしいこと、そしてふしぎなできごとも、いっぱい、つまっているのです。

このプレゼントを、もらえない子がひとりもいないように、本にかきました。だって、ひとりひとりの子どものところに、おはなしにはいけないからです。

でも、この本を読んだあなたは、おとうさんやおかあさん、それからきょうだいや、お友だちに、こんなはなしがあるよ、って、はなしてあげてくださいね。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

たべられたやまんば

むかし、
山の　寺に　小さな　こぞっこが
いて、ある日、山へ　くりひろいに
いったんだと。
　気が　ついたら　いつのまにか、
ふかい　山おくに　きていた。
　すると、がさがさ、やぶを
わけて、ひとりの　ばあさまが
でてきた。
「こぞっこや、なんと　まあ

かわいいこと。
おれはな、おまえの、
おとうの　ねえさんの
よめに　いった　さきの
おっかさんの　いもうとだ。
つまり、おまえの　おばさまだ。
こんや、くりこ　いっぱい
にておくで　あそびに　こいよ。」
　こぞっこは　たまげて
とんでかえった。

「おしょうさん、おしょうさん、
おらに　おばさまが　いた。
こんや、くりこ　たべに　こいと
いってくれた。おら　いきてえ。」
おしょうさんは、首を　ふった。
「だめだ、それは　きっと　やまんばだ。
とってくう　気だ。いくな、いくな。」
「でも、おらの　おばさまだって
いったもの。いくいく、どうしても　いく。」
おしょうさんは、ふうむと　うなった。

「よし、それなら　いけ。この　おふだ　三まい
やるから、こまった　ときには　おふだに　たのめ。」
　こぞっこは　うれしくて、とんとん　はねて、
山へ　いった。
「おばさま、おばさま、こぞっこが　きたよ。」
「おお、よう　きた、よう　きた。あがれ、さ、
くりっこ、いっぺ　にてある。たんと　くえや。」
　こぞっこは、くった、くった。
　はらぽんぽんに　なるまで　くったら、ねむくなって、
ことんと　ねてしまった。

よなか、雨の　音に　こぞっこは　目を　さました。
すると、雨だれが　うたっている。

こぞっこ　あぶねや　てんてんてん
こぞっこ　あぶねや　てんてんてん

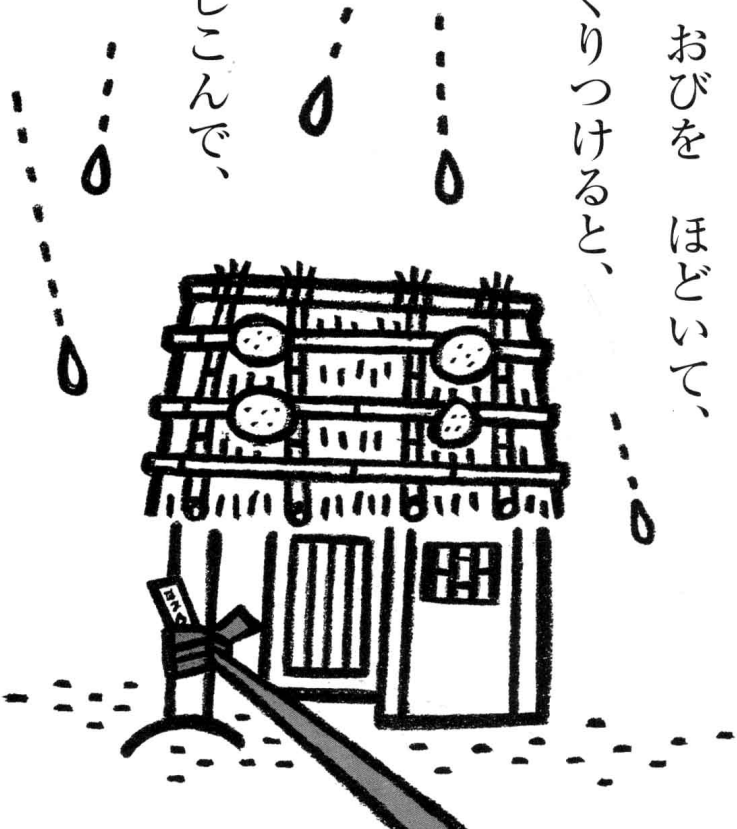
こぞっこは　きみわるくなって、そっと　となりの
へやを　のぞいたと。すると　ひるまの　ばあさまが、
にかにか　わらいながら、ほうちょうを　といでいた。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

こぞっこ　うまかろ　にっかにか
こぞっこ　くいてや　にっかにか

「や、やまんばだ……。」
「見たか、見たな、こぞう。」
やまんばが、ぎろりと　ふりかえった。
「おら、なんも　見ねえ。しっこ　しっこ、
おしっこが　してえ。」
「なに、しょんべんだあ。ようし、おびで　きりきり
しばってやるで、べんじょへ　いってこう！」

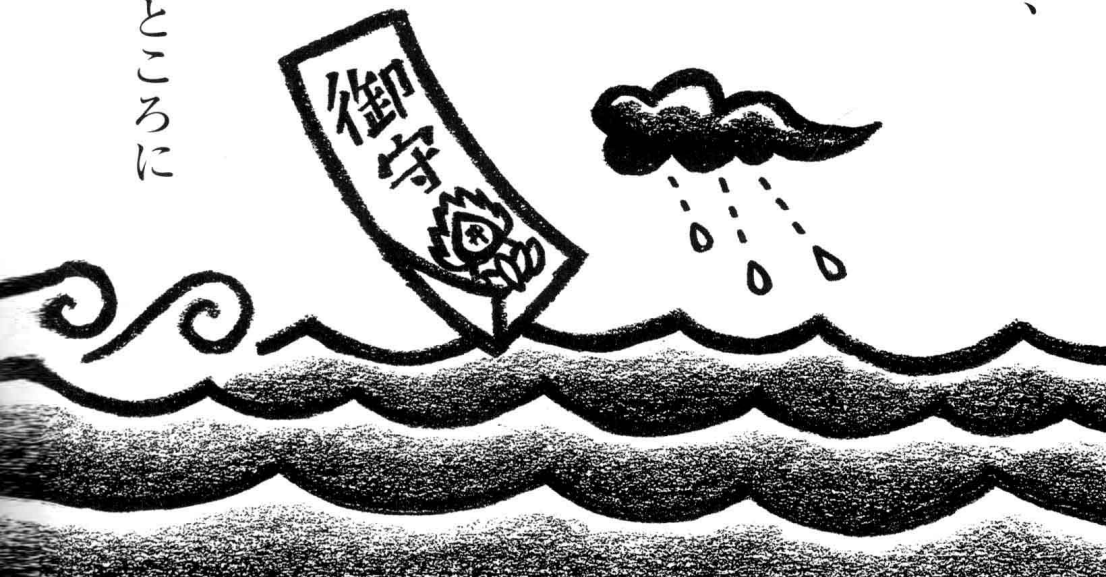
やまんばに　つきとばされて、こぞっこは、おもてに
とびだした。
ほれ、むかしの　べんじょは、おもてに　あったからよ。
こぞっこは、しばられた　おびを　ほどいて、
べんじょの　はしらに　くくりつけると、
「おふだ、おふだ、
おらの　かわりに
なってけろ。」
おふだを　はしらに　さしこんで、
とっとと　にげだした。



「こぞう、でたか。」
やまんばは、こぞっこが
ちっとも　かえってこないので、
ぐいと、おびを　ひっぱった。
すると、おふだが　へんじを　した。
「まあだ、まあだ。」
「でたか、こぞう。」
「まあだ、まあだ。」
「でたか。」
「まあだ、まあだ。」

さあ、やまんばは　おこった。
「こぞう、でてこい。」
力いっぱい　おびを　ひっぱったから、
べんじょの　はしらは　すぽっと
ぬけて、まあだ、まあだと
いいながら、ふっとんできた。
がつーん。いててててて。
「こぞう、にげたな。」
やまんばは　走りだした。
「まてえ、こぞう　まてえ。」

こぞっこは、ふりかえり　ふりかえり、
「あ、きた。そこまで　きた。
ああん、ああん、くわれるう。」
にげながら、そうだっと、二まいめの
おふだを　うしろに　ほうりなげた。
「ここさ、大川　でろ！」
ごーっ。
見るまに　大川が　あらわれて
ごうごうと　ながれだした。
やまんばは　たまげて、あれえ、こんな　ところに



川が　あったかと、目を　ぱちくりさせたと。
だけど　やまんばだもの。

なんだ川　こったら川
なんだ川　こったら川

ざんぶと　とびこんで、しゃがしゃが
しゃがしゃが、およぎはじめた。
こぞっこは、その　まに　どんどと　にげたが、
「まてえ、こぞう　まてえ！」